

国保広域化に向けたシステム改修 子宮頸がんワクチン被害救済の陳情採択

6月議会市民福祉常任委員会が6月10日(金)に開催されました。
◎寺岡まゆみ(公明党)
○井上 武(改革あつぎ)
釘丸久子(日本共産党)
渡辺貞雄(あつぎみらい)
山本智子(無党派)
高橋 豊(あつぎみらい)
高橋知己(新政あつぎ)

議案第42号 平成28年度厚木市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)

釘丸議員 国保の都道府県化に向けたシステム改修費だ。一般会計からの繰入だが、あとで国からくるが全額ではない。

今回は1億5800万円の繰越金で対応するが、残りはいくらか。国保年金課長 平成30年度から制度が変わり、都道府県化される。

繰越金は平成27年度末で4億8000万円程度である。

渡辺議員 なぜ6月に補正なのか。課長 県のシステム改修が4月になってからだったので、当初予算に計上できなかったため。

採決の結果は賛成全員で可決

話題あれこれ

毛利台地域で議会報告会

(釘丸久子議員)

6月8日(水)、毛利台ハイム集会所で「釘丸久子議員と語る会」が開催されました。

釘丸久子議員は、6月議会の概要と、「厚木市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」の目標数値とそれへの取り組み、地域ごとの人口構成などについて話しました。

毛利台地域は40数年前に開発された団地で、現在の高齢化率は44・22%と、市内で一番高くなっています。

参加者の関心も、地域の高齢化や買い物に不便なことなどに集まりました。「自分の住んでいる地域の高齢化率はどれくらい?」の質問もありました。

3月10日開催の厚木市の地域公共交



陳情第6号 子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)接種後症状に関する問題解決のための陳情

陳情第7号 子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)接種後の症状発症者に対する救済支援を求める意見書を国に提出することを求める陳情

*2件を一括審査です。

高橋豊議員 経過と判定調査会の対応は。

山本議員 接種総数と相談等の件数、卒業した子のその後はどうか。病院での副反応の診断は。

健康づくり課長 市内では緊急促進時期の2年2ヵ月に約4000人、その後任意で10人程が接種している。4人が副反応を訴え、医師から国への報告は1件である。

高橋知己議員 2年前に厚木市議会議員提案で原因究明を国に求めた。実態把握は重要であり、市独自でなく、県・国のレベルで実施すべき。市として対象者全員にアンケートをしたか。

課長 市独自で接種者全員へのアンケート調査は行っていない。

釘丸議員 陳情者の会は厚労省や県

知事とも話ができていたが、製薬会社は一切対応しないとのこと。被害を受けた方にまだまだ救済が不十分である。この思いを受け止めたい。

山本議員 要望が出るのは解決されていないということ。近々別のワクチンが出るとのことだ。何も詳しいことが分からない子どもたちが被害者だ。運動を継続していくことが必要だ。

渡辺議員 被害者の立場で解決できていない。6号は趣旨採択に、7号は採択に。

高橋知己議員 原因究明し再発防止、被害者への対応も大切。2件ともに採決すべき。

釘丸議員 2件とも賛成の立場。前回の議会の意見書の項目をみると、議論の継続と迅速化を求めている。今まで以上にしっかりとやっていただきたい。

6号について

趣旨採択については、賛成は2名(渡辺・高橋豊)のみで否決。

次に採択、

賛成は4名(釘丸・井上・山本・高橋知己)で、採択されました。

7号については

賛成全員で採択されました。

の乗車で払えるのはワンコインまでだ

「デマンドタクシーの仕組みがよくわからない」などの意見が出ました。

その他に「防犯灯をLEDに替えるというが、優先順位は?地域から声を出してほしいのか?」「道路の片側だけが痛んでいる場所がある。近隣の配送業者のトラックの影響だと思ふ」など、地域ならではの声が多数寄せられました。

防犯灯のLED化

厚木市は市内に約1万8千灯ある防犯灯全てを今年度中にLED化する計画です。現在事業者を選考中で、7月に決定し、その後自治連の会議などで説明を行います。

これにより電気料金が45%、年間約3800万円安くなります(平成27年度実績比)。